

## 歴史発見

## 母校設立に貢献した2人の女性

「湧水万古の会\*」有志を代表して 井上 務 (昭和44年卒)

## 母校の106年前を探る

都立南多摩高校の閉校が目前となりました。平成27年4月からは「都立南多摩中等教育学校」になります。

遡ること106年前(明治41年)にも閉校と開校がありました。そして今、平成の閉校、そして開校に私たちは出合うこととなりました。得がたい機会ですので「湧水万古の会」を中心に有志数名が集い、106年前の開校当時のことを「少し調べてみよう」と思い立ちました。

しかし、昭和20年8月2日の八王子空襲で母校は焼失し、多くの貴重な資料が失われていますので、文書が残っていない部分は口承・伝聞も含めて資料を集めたいと考えました。とはいえ、106年も昔のこと、「3日前の昼食のおかずは何であったか」と問われてもすぐには思い出せないのに、歴史の専門家でもない者が106年前を調べるなどは、「あまりにも無謀では」と意気消沈したこともありましたが、助っ人数名を得たことで開校当時に関するいくばくかの新知見を得ることができました。ここに記しておきたいと思いついた次第です。

同窓の皆さまには拙文をご一読頂き、感想や更なる情報、ご叱責を頂戴し、開校当時のいろいろをさらに少しずつ明らかにしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、伝聞によれば母校が開校する前、そこは桑畑だったそうです。その桑畑がどのような経緯で学び舎となったのかをいろいろ調べてみました。

## 校地はどのように確保されたのか

当時、三多摩地域の優秀な男子は府立二中(現立川高校)への流れがあったようですが、一方では優秀な女子を受け入れる学校が望まれていました。

駅に近いまとまった土地が検討されました。すると願ってもないような土地が見つかったのです。現在のJR八王子駅とは位置が少し違いますが、駅至近に6,581坪30合というひとまとまりの広大な土地です。

そのような中で見つかった土地の所有者は、新藤ナツ(明治2年・1869年生)。女子教育の歴史をスタートさせるために「町のお役に立つならば」と一括無償提供の申し出がなされました。

この新藤家、天正年間(1590年頃)に甲州より八王子に移り住み、八王子千人同心組頭を代々勤めていました。

新藤ナツからの無償提供の申し出ではありましたが、八王子町の意向があり廉価で売却されることとなりました。当時の土地価格は1坪が8銭4厘でしたが、実際の売却価格は1坪が1銭6厘、無償提供に近いと私たちは考えました。当時の土地に関する概念は現在とは相当違っていたようですが、新藤ナツに学校開設への深い理解と熱

い思いがあったからこそ広大な土地が一括提供されたのだと確信いたします。

実は土地を提供された新藤ナツの子および夫の類縁者は横川楳子(嘉永6年・1853年生)が開園した私立八王子幼稚園に入園しており、当然のことながら横川楳子と新藤ナツとは旧知の間柄であり、校地について直接話し合ったと伝えられております。このような背景があり、当時は桑畑であった所に母校が開校されることになったのです。そのように楳子とは親しい間柄にあった新藤ナツの娘ツヤ(明治29年生)は府立第四高等女学校3回生、本科を卒業。ナツの孫である富子・陽子も都立南多摩高校卒であることを付記しておきます。

横川楳子の教育事業を未来へ確実に具体的に継承するためには欠かすことができなかった広大な土地。その土地を提供した新藤ナツ。そして私立八王子女学校の創立者としての横川楳子。楳子とナツ、その両者が相俟って私達が青春時代を過ごした母校が誕生したのです。



横川楳子創立の私立八王子女学校校舎(明治40年代・天神町)

## 横山町に列女あり

さて、歴史は英語でHISTORY、これをHIS STORYと分解した方がおりましたが、我が母校は横川楳子、新藤ナツ両女史によるHER STORYからスタートしたということです。昭和24年に男女共学となるまで女学校としての長い歴史を有してきた母校に相応しいスタートであったと思います。

ここで新藤ナツにまつわるちょっと面白いHER STORYを入手いたしましたので紹介いたします。ナツは大正期に浅川の暁橋架橋に際し、女性だからと寄付金が減額されたことに嚴重抗議、男性と同額の寄付をしたそうで、「横山町に列女あり」といわれたエピソードが伝えられております。HER STORYの一端を垣間見た思いとなりました。

明治40年11月より校舎の建設が始まり、翌41年4月に



本館西部の南北に延びた校舎が完成しました。初代・長尾松三郎校長が府立第三高等女学校(現駒場高校)より就任して、5月11日に府立第四高等女学校が開校、6月に校舎すべてが落成しました。横川樫子は八王子女学校の在校生徒全員を府立第四高女に移籍させ、土地を除いた設備などすべてを東京府に寄付して教育の第一線から退きました。



新築された府立第四高等女学校の校舎 (明治末・明神町)

### 資料に誤りを見つける

さて、横川樫子が創立した私立八王子女学校(八王子では最も古いといわれる幼稚園も併設)は、明治24年(1891年)に本立寺住職・及川真能より上野町4番地(現天神町)に250坪の土地を借り受け校舎を建設、翌年11月に開校されました。その横川樫子創立の私立八王子女学校を揺籃としつつ、母校は現在の明神町に新設されました。樫子創立の私立八王子女学校は上野町、我が母校は明神町にそれぞれ新設されたということを改めてここに確認しておきたいと思います。それは、このあたりの経緯を記した資料の中に、本立寺の寺社所有地にあった八王子女学校が、そのまま府立第四高等女学校になったかのような記述がみられるからです。

例えば『年表に見る八王子の近代史』(昭和60年発行かたから書店刊)の明治41年の項には、「5月 府立第四高等女学校が開校(校地は横川樫子が私立女学校の敷地を寄附したもの)。東京府青山師範学校第一種講習所(小学校教員養成機関)が府立第四高等女学校校内に併置」とあります。

同様に「三多摩近代百年史年表《復刻版》」(多摩中央信用金庫発行 昭和49年刊)には、「私立八王子女学校が府立第四高等女学校となる」とあります。

これは、横川樫子創立の学校校舎は本立寺の寺社所有地に残され、そのままの状態青山師範学校第一種講習所(その後八王子町立図書館)へとその姿を変えたのであって、明神町に新設された府立第四高等女学校校舎とは全く別のものであることの認識がないまま、誤って記述さ

れたと考えるしかありません。ここにその誤りを指摘しておきます。

最近ではインターネットで手軽にいろいろな情報を入手することができます。ちなみに「横川樫子」とキーワードを入力して検索すれば、沢山の情報が居ながらにして得られます。しかし、曖昧で時には正しくない情報も多く、玉石混交の状態にあることが、今回「私たちが学んだ母校の土地が、どのような経緯で、誰によって提供されたのか」を調べる中で明らかになりました。

### 恩を忘れないために

母校は「都立南多摩中等教育学校」へと新しき歴史を刻み始めています。その百年後を想像しつつ、百年以上を経て今、往時を考えてみました。

「飲水思源」、水を飲む時、井戸を掘った人のことを思えとの言葉がありますが、今回焦点を当てた創立者「横川樫子」、そして校地提供の「新藤ナツ」のように、多くの先人の努力を忘れることがないようにしたいと強く感じました。



府立第四高等女学校と旧私立八王子女学校の所在地(大正10年)



私立八王子女学校が描かれた地図(明治39年)

【写真提供】八王子市郷土資料館、新藤恵久

【資料】「明治時代の八王子の教育と横川樫子」「八王子の府立学校」(八王子市郷土資料館)、「写真でつづる母校の70年」(あかね会)、「南高75周年記念誌」「南高100周年記念誌『湧水万古』」(南多摩高校)

【地図】陸地測量部刊行 大正10年測図 2万5千分の1地形図「八王子」  
陸地測量部刊行 明治39年測図 2万分の1地形図「八王子」

\*「湧水万古の会」は、南多摩高校 100 周年事業記念誌編集委員会



